

各グループの取組と課題

2) KSCマジッククラブ

代表：森田明朗

KSCマジッククラブは昨年創部20年の節目を迎えました。現在、不思議大好き人間70名が「奇術」「喜術」なりをモットーに月2回の例会を楽しんでいます。年間の主な行事は、4月総会及び春の手品会、9月秋の1泊研修会、11月マジックの祭典（学生と合同）マジックとは何が楽しいのか？学問的に難しく言うと「人間心理の盲点を巧みに利用して、常識社会の



中に非常識の世界を作り上げ見せるアートです」そんな理屈よりも、ただ大人も、子供さんも、目の前で瞬間にハンカチの色が変わる、ボールが消える、ハンカチの中から鳩が飛び出す、切ったロープがつながっている等の現象に「オー」とか「ワー！」と驚きの声をあげ、拍手を頂けるのです。この拍手を励みに年間100回のボランティア活動を目標に頑張る所存です。

この拍手を励みに年間100回のボランティア活動を目標に頑張る所存です。

3) 朗読・あかりの会

代表：淡路忠義

あかりの会は、3期生の平林先生の指導の下に、朗読・視覚障がい者のサポート等の活動し、卒業後も日本赤十字社兵庫県支部・声の図書奉仕団に参加して、朗読を中心に、日赤の行事、防災訓練・小中学生への点字・車いす・ガイドヘルプ等の講習・募金活動・神戸まつりパレードの支援等を15年間参画して参りましたが、メンバーの高齢化のため2019年3月末をもって卒業することになりました。これまでグループの皆様からいただいた多くのご支援に心より感謝いたします。最後に皆様のご健康とますますのご活躍を祈念いたします。



4) 人形劇 ほたる座

代表：東本孝次

「ほたる座」の歴史は古く、震災直後にKSC第1期生が立ち上げたと聞いている。ところが現在はメンバーも高齢化してきて、最古参は5期卒である。当然のことながら活動も低調で年間に数回の公演に留まっている。以前は各地の「こども会」から声が掛かって出かけて行き、孫と同世代の観衆から随分元気をもらって帰り、本当にありがたいことだと話し



合ったものである。直近3年の活動（公演）実績は以下の通りである。在籍メンバーは8名。

平成28年8月22日、老人施設「メープルホーム」、同9月7日、「シルバーハイツひよどり」。平成29年5月5日、神戸市水の科学博物館、同8月11日、老人施設「まんてん垂水」、同9月16日、こべっこランド。平成30年3月9日、井吹の丘小学校なかよし学級、同7月30日、老人施設「まんてん垂水」、同9月7日、老人施設「メープルホーム」。このように主に老人施設にて細々と活動し、同世代の観衆に劇を披露している昨今である。

5) むかしあそび研究会

代表：大澤貞男

折り紙、お手玉、あやとり、こま、けん玉、ぶんぶんどま、竹とんぼ・子どもの頃に親しんだ遊びに一工夫加えながら、小学校、幼稚園、保育所や児童館に出かけて孫世代の子どもと一緒に楽しく遊んでいます。

また、夏祭りなどの地域イベントでは子どもだけでなく大人にも「懐かしいな～」と楽しんでいただいています。月一回の例会は研修と遊び道具作り。皆さん



老化防止を兼ねて手と口を最大限に働かせて元気一杯ですが、少しずつ

参加者が減っているのが悩みの種。こども文化（在校生）との連携を強化しつつ、遊び内容の拡大や質の向上を図って「昔遊び、めっちゃ楽しい～」と言ってもらえるようこれからも頑張ります。